



全金属製の大型プレーン

ENYA80-4Cエンジン搭載
プロテックより発売

『シルバーバード』

最近樹脂を使った準完成プレーンも多くなってきたが、ラジコン機はやはりバルサ製が主体。当然、オール金属製のRC機となれば、かなり珍しい部類に属する。写真はプロテック（東京）から発売の西ドイツ・ブラジィ社製キットから、安藤由隆氏（横浜）が組み上げた『シルバーバード』。キャノピー、エンジン・カウリング、スパッツ、翼端チップにABSやポリカーボネイトを使用している以外は全てアルミニウムなどを構成材料とした金属製だが、RCカーやヘリのようにボルトオンで組立可能…とはいかず、各パーツは専用の接着剤できちんと固定することが必要。しかし、それもまた飛行機マニアにはたまらない魅力だろう。飛行振りは予想以上にすばらしく、大型機特有のゆったりしたフライトが楽しめるのも特徴。

●テスト機のテクニカル・データ

全長	1650mm
全幅	2250mm
全備重量	5200g
主翼面積	73dm ² (概算)
エンジン	ENYA80-4C
プロペラ	MKグラス11½×8
RC装置	フタバFP-8 SGAP (エルロン、エレベーター、ラダー、エンコン)



写真上・生地完状態の本機。リブはアルミ製のプレス加工品、スパーは外径15φのアルミ・パイプを使用し、充分な剛性を誇る。主翼は左右2分割式でワンタッチで着脱でき、尾翼部分も取り外せるので小型乗用車にもラクに積み込める。

写真左・初飛行前のシルバーバード。主尾翼は赤の色絹を張り、クリヤー・ドーブを何回も塗り重ねて半透明の雰囲気仕上げています。樹脂製パーツはラッカーで着色し、クリヤー・ウレタンで耐燃処理。なお、プロペラは上記データのものより若干ダイヤを増し、ピッチを減らした方がよい結果を示すだろう。

本機の製作～飛行は149ページに